

# 平成22年3月期 会社説明資料

平成22年7月

株式会社プラコー

(JASDAQ.6347)

平成22年3月末現在

商号 株式会社 プラコー

---

本社 埼玉県さいたま市岩槻区笹久保新田550番地

---

代表者 代表取締役社長 秦 範男

---

設立 昭和35年8月

---

資本金 1,332百万円

---

売上高 2,430百万円 (平成22年3月期実績)

---

従業員 75名

---

昭和35年8月	プラスチック工業株式会社を創立（資本金100万円）
昭和36年8月	埼玉県川口市に新工場を建設、押出機及びブロー成形機を本格的に生産開始。
昭和42年10月	東京都港区に本店を移転。
昭和45年5月	埼玉県岩槻市（現. 埼玉県さいたま市岩槻区）に浦和工場を新設。
昭和47年1月	商号を株式会社プラコーと改称。
昭和47年11月	埼玉県川口市に本店を移転。
昭和48年2月	日本証券業協会に店頭売買銘柄として登録。
昭和48年11月	株式額面変更の為、江東機工株式会社と合併。
昭和55年5月	プラコーエンジニアリング株式会社設立（機械部品加工会社、平成18年4月吸収合併）
昭和62年7月	静岡県掛川市に工場用地を取得。
昭和63年7月	埼玉県岩槻市（現. 埼玉県さいたま市岩槻区）に本店を移転。
平成3年5月	静岡県掛川市に掛川工場を新設。
平成7年1月	株式会社プラコーテクノサービス設立（メンテナンス会社、平成18年4月吸収合併）
平成9年4月	リサイクル装置の生産、販売に本格参入し、リサイクル元年とする。
平成13年3月	埼玉県の彩の国指定工場に認定される。
平成16年12月	株式会社ジャスダック証券取引所に上場。
平成18年4月	4月1日付けをもって連結子会社2社を吸収合併
平成20年5月	富拉鑫股份有限公司(台湾)設立。(機械製造会社)
平成21年5月	富拉鑫股份有限公司(台湾)解散。
平成22年4月	株式会社大阪証券取引所へ上場。（旧株式会社ジャスダック証券取引所）

## (1) インフレーション成形機事業

当部門においては、フィルム製品（レジ袋、ゴミ袋、農ポリ、ラップ、多層、機能）を成形する為のインフレーション成形機を製造及び販売しております。

## (2) ブロー成形機事業

当部門においては、中空製品（自動車部品、工業用部品、日用雑貨品）を成形する為のブロー成形機を製造及び販売しております。

## (3) リサイクル装置事業

当部門においては、環境保全の一環でありますリサイクル装置（破砕機、再生機、再生品成形）を自社技術と一部を海外メーカーとの提携による技術によって製造及び販売をしております。

## (4) メンテナンス事業

当部門においては、機械メンテナンス及び部品の販売を行なっております。

# 平成22年3月期 決算概要

株式会社プラコー

(JASDAQ.6347)

当事業年度における我国経済は、リーマンショックの影響下、引続く景気後退、雇用環境の悪化、設備投資の低迷やデフレ懸念等業種間または企業間における格差が拡大するなか、景気は回復基調に突入したと言い難い状況であり、全体的に先行き不透明な状況で推移しております。

当社の関係するプラスチック加工業界においても、引続き景気の低迷、汎用生産設備の新興国へのシフトや引続く構造的な需要減少と自動車関連の設備投資が減少するなど、厳しい環境にあります。

このような状況下、営業面では、第1次補正予算に係る新技術開発テーマとなった工業用薬品タンク用4種6層ブロー成形機や、時代の脚光をあびる太陽光発電フィルム用インフレーション成形機など、新機能、新分野商品の受注に向けて全社挙げての協力体制をとりました。また、生産面では、更なるコスト削減と商品品質の維持、生産性の向上に努めました。

以上の結果、当会計年度においては売上は24億3千万円（前期比18.5%減）となりました。また、損益面につきましては、売上高は減少したものの、コスト削減及び固定費の減少などにより損益分岐点が改善されたことから、営業利益7百万円（前期は営業損失1億2千8百万円）、経常損失4千2百万円（前期比76.5%減）、当期純損失4千8百万円（前期比92.0%減）となりました。

# 損益計算書（非連結）

(単位：百万円)	21年3月期	22年3月期	前期比	備 考
売上高	2,981	2,430	△ 550	① 景気悪化による設備投資の減少 ② 自動車関連の部品成形用ブロー成形機の需要低迷 ③ リサイクル装置の設備投資の激減
売上原価	2,263	1,874	△ 389	
販売費及び一般管理費	846	548	△ 297	① 人件費減少 106 ② 運賃荷造費減少 50 ③ 研究開発費減少 43
営業利益	△ 128	7	136	
営業外収益	17	14	△ 3	
営業外費用	70	64	△ 5	
経常利益	△ 181	△ 42	138	
特別利益	—	6	6	貸倒引当金戻入額 5
特別損失	508	5	△ 503	子会社清算損 4
法人税、住民税及び事業税	△ 85	6	91	
当期純利益	△ 604	△ 48	556	

# 貸借対照表（非連結）

(単位：百万円)	21年3月期	22年3月期	増 減	備 考
流動資産	1,094	711	△ 383	現預金の減少及びたな卸資産の減少
固定資産	865	776	△ 88	ゴルフ会員権売却ため減少
資産合計	1,959	1,498	△ 461	
流動負債	1,455	950	△ 505	短期借入金・前渡金の減少
固定負債	669	501	△ 167	長期借入金の減少
負債合計	2,124	1,452	△ 672	
資本金	1,205	1,332	127	株主割当 47、第三者割当 80
資本剰余金	3	131	127	株主割当 47、第三者割当 80
利益剰余金	△ 1,489	△ 1,537	△ 48	
自己株式	△ 5	△ 5	—	
株主資本合計	△ 286	△ 78	207	
評価・換算差額等合計	121	124	3	
純資産合計	△ 165	45	211	
負債純資産合計	1,959	1,498	△ 461	

# キャッシュ・フロー計算書（非連結）

(単位：百万円)	21年3月期	22年3月期	比較増減	備 考
営業活動による キャッシュ・フロー	51	△ 4	△ 56	売上債権の増加及び仕入債務の減少と たな卸し資産の減少
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 18	270	288	定期預金の減少
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 331	△ 335	△ 3	株式発行による収入及び短期・長期借入 金返済による支出
現金及び現金同等物の 増加額	△ 298	△ 69	229	
現金及び現金同等物の 期首残高	453	154	△ 298	
現金及び現金同等物の 期末残高	154	85	△ 69	

# 部門別売上高

(単位：百万円)

部 門	21年3月期		22年3月期		比較増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	売上高	増減率
インフレーション成形機事業	1,290	43.3%	1,311	53.9%	20	1.6%
ブロー成形機事業	767	25.7%	587	24.2%	△ 180	△ 23.5%
リサイクル装置事業	582	19.6%	245	10.1%	△ 337	△ 57.8%
メンテナンス事業	340	11.4%	286	11.8%	△ 54	△ 15.9%
合 計	2,981	100.0%	2,430	100.0%	△ 550	△ 18.5%

インフレーション成形機事業

設備投資の減少傾向の中、特殊フィルム成形機等受注増加。

ブロー成形機事業

自動車関連の部品生産の減少により、設備需要が非常に厳しい状況でした。

リサイクル装置事業

廃プラスチックの価格低落と景気の後退によるリサイクル装置の設備投資の減少。

メンテナンス事業

設備の新規導入の減退と需要低迷に伴う機械稼働率の減少により部品販売も減少。

# 平成23年3月期 業績予想

株式会社プラコー

(JASDAQ.6347)

# 業績予想（非連結）

(単位：百万円)	22年3月期	23年3月期 (予想)	増	減
売上高	2,430	2,620		189
経常利益	△ 42	33		75
当期純利益	△ 48	27		75
EPS (円)	△ 3	1		4
ROE (%)	—	—		—

EPS = 1株当たり当期純利益

ROE = 自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

## 経営方針

当社は、インフレーション成形機及びブロー成形機などのプラスチック成形機各種と、環境リサイクル機器の製造、販売を主たる業務として、社会生活の向上と環境保全に役立つ商品を提供することによって、社会に貢献すると共に、適正利益の確保と企業の発展を目指し、さらには、株主への適正配当と従業員生活を安定、向上させることを基本方針としております。

## 今期の取り組み

### (販売促進施策)

- ① 太陽光発電フィルム、4種6層の工業用薬品タンク、小型自動二輪車用燃料タンクを対象とする時代を先取り新技術に係るインフレーション成形機、ブロー成形機など新商品の開発と拡販
- ② 社内展示会における新商品紹介
- ③ 業界新聞、雑誌上での新商品紹介
- ④ 客先へのローラー作戦の展開による市場の掘り起し
- ⑤ 部品、メンテナンス工事の受注努力

### (生産コストダウン施策)

- ① 設計面からの過剰仕様、過剰品質の削除
- ② 国内外の仕入先との交渉による仕入コストダウン
- ③ 海外調達、海外生産の拡充
- ④ 生産システムの見直しと改善による生産コストダウン

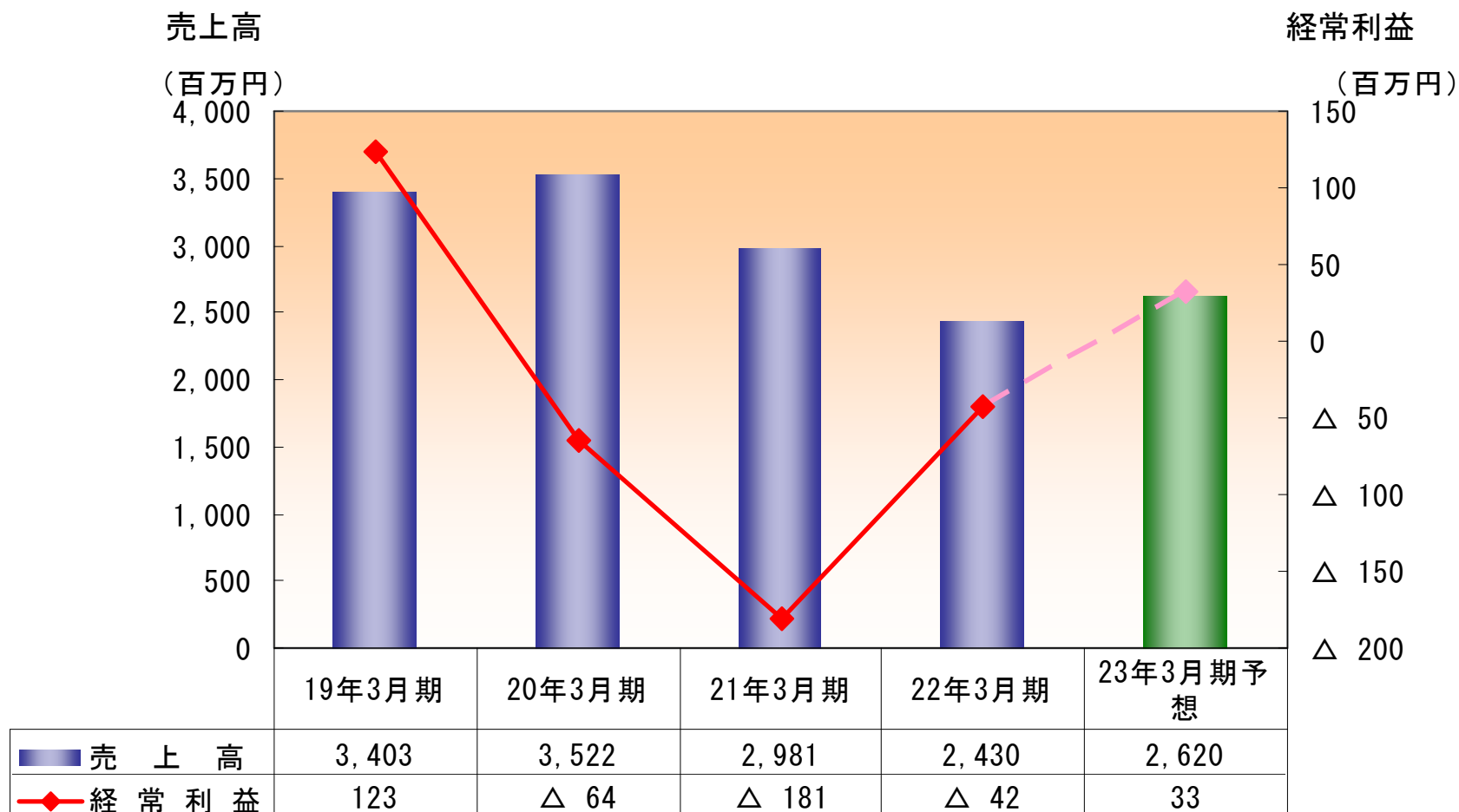
### (固定費削減施策)

- ① 労務費の削減
- ② 一般諸経費の見直しと削減
- ③ 月次固定費を限界利益以内に抑えることを目指す

### (資金調達の安定と拡大)

- ① 売上代金の早期回収
- ② 銀行借入の復活
- ③ 信用状取引の復活
- ④ 手形割引枠の拡大

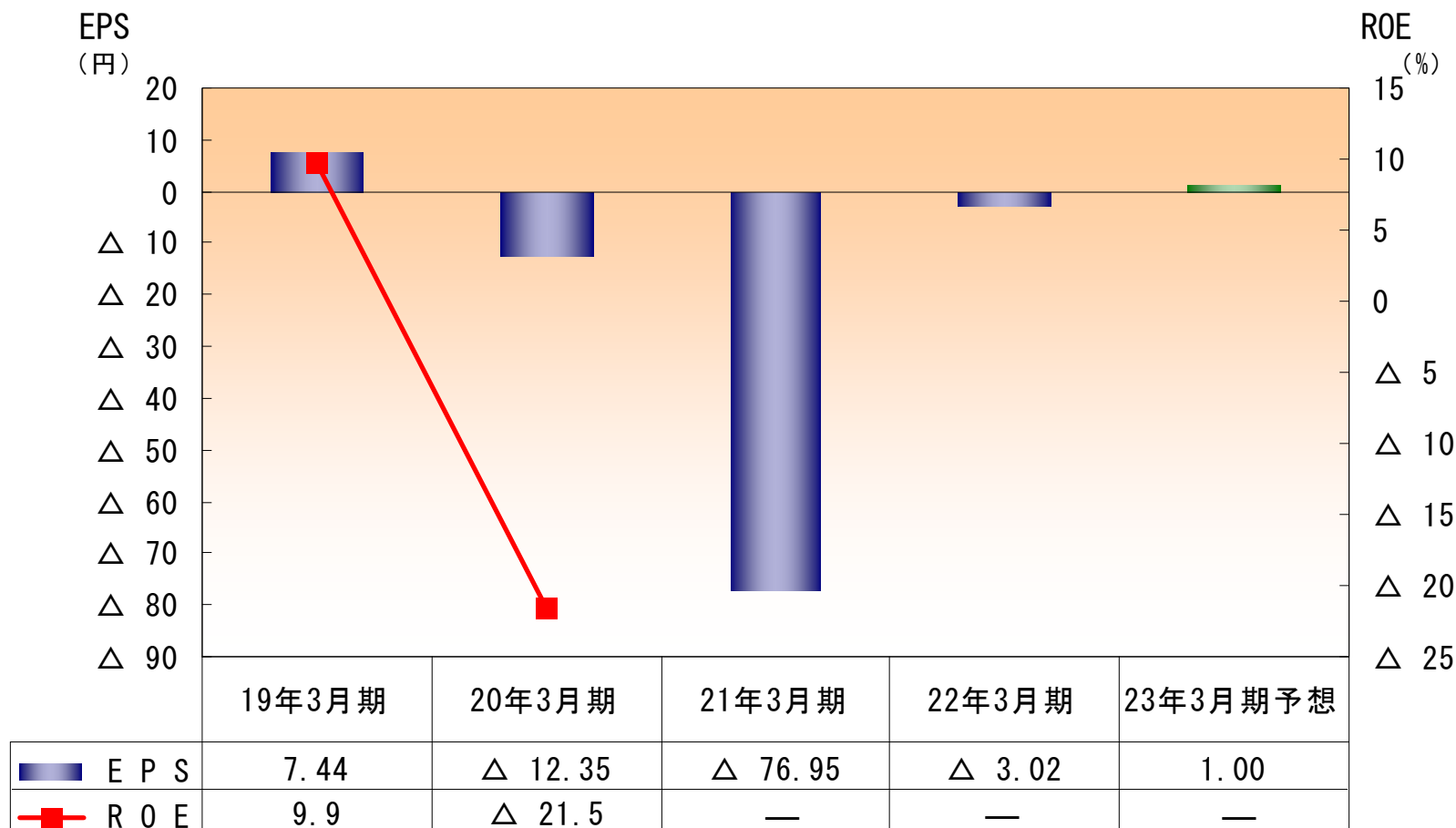
# 売上高・経常利益の推移（非連結）



※19年3月期、20年3月期は、平成20年9月26日及び29日に訂正報告書提出後の数値です。

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

# EPS・ROEの推移（非連結）



※19年3月期、20年3月期は、平成20年9月26日及び29日に訂正報告書提出後の数値です。

EPS=1株当たり当期純利益

ROE=自己資本利益率

上記の業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

 株式会社プラコー

担当部： 経理部

T E L : 048-798-0222

E-mail : [placo@placo.co.jp](mailto:placo@placo.co.jp)